

# グローバルサウス・アフリカ委員会 ミッション報告書

2023年11月5日-11日  
英国・ロンドン  
モロッコ・マラケシュ

2024年1月

公益社団法人 経済同友会

## 目次

1.	はじめに .....	1
2.	ミッションの概要 .....	2
3.	ミッション日程 .....	3
4.	ミッション参加者名簿 .....	4
5.	アフリカ・インベストメント・フォーラム（AIF）概要 .....	5
6.	個別面談概要 .....	7
	（1）在英日本国大使館との面談 .....	7
	（2）ジェトロ・ロンドン事務所との面談 .....	8
	（3）British International Investment（BII）との面談 .....	8
	（4）Africa Finance Corporation（AFC）との面談 .....	9
	（5）JBIC パリ事務所との面談 .....	9
	（6）アフリカ開発銀行（AfDB）との面談 .....	10
	（7）日系スタートアップとの面談 .....	11
7.	おわりに .....	12
	参考：ミッション中の写真 .....	13

## 1. はじめに

グローバルサウス・アフリカ委員会は、2050年まで最も人口が拡大すると言われているアフリカの開発・課題解決に向けて、日本の官民、特にビジネスの対アフリカ・コミットメントを拡大することを目標に、2025年夏に横浜で開催見込みのTICAD9に対する提言に向けた準備、日本企業のアフリカビジネス拡大に資する取り組み・会議体の側面支援、アフリカに関わる幅広いネットワークの構築・拡充を推進している。

近年の特筆すべき動きとして、ファンド運営会社 and Capital 株式会社の設立に向けた提言及び会員有志による同社立ち上げが挙げられる。本会アフリカ関連委員会・PT（プロジェクトチーム）（※委員会・PTの呼称は年度によって異なる）は、日本の対アフリカ直接投資残高の減少を受け、アフリカの開発に寄与する日本企業からの投資を促進すべく、2021年10月にインパクトファンド「アフリカ投資機構（仮称）」の設立を提言し、その後設置した準備委員会にて同ファンド構想の具体化・実現に向けた検討を行ってきた結果、本年1月に会員有志によってファンド運営会社 and Capital 株式会社が立ち上げられる<sup>1</sup>（洪澤健グローバルサウス・アフリカ委員長が代表取締役CEOを務める）等、提言を実行に移している。なお、本会提言を基に会員有志により会社が立ち上げられたのは、1981年の日アセアン投資株式会社（現 日本アジア投資株式会社）以来、約40年ぶりとなる。and Capital は、TICAD8において岸田総理によりその計画が歓迎されたほか<sup>2</sup>、「TICAD 8 チュニス宣言」にも当構想を歓迎する文言が盛り込まれ、AfDBからも構想にCo-Creation（共創）への高い関心が示される等、日アフリカから高い期待が示されている。

また、本会は2022年8月のTICAD8の機会にチュニジア及びモロッコにミッションを派遣し、TICAD8においてインパクトファンド構想を説明するとともに、アフリカのビジネスの現状把握のために現地経済団体、国際機関、現地ファンドとの面談を実施した。その際、ファンド構想に関心を持ったアフリカ開発銀行（以下 AfDB）の Adesina 総裁から招待を受ける形で、同年11月にアビジャン（コートジボワール）で開催されたアフリカ・インベストメント・フォーラム（以下 AIF）に参加し、AIFにてファンドの構想を説明する機会も得た。同時に AfDB と本会の間で日本とアフリカのビジネス関係の強化に向けた

<sup>1</sup> 2022年12月6日 本会お知らせ「アフリカへのインパクト投資促進に向け、経済同友会会員有志がファンド運営会社を設立」[https://www.doyukai.or.jp/newsrelease/2022/221226\\_1315.html](https://www.doyukai.or.jp/newsrelease/2022/221226_1315.html)

<sup>2</sup> 外務省「第8回アフリカ開発会議（TICAD8）の開催（1日目：開会式及び全体会合1）」[https://www.mofa.go.jp/mofaj/af/af2/page1\\_001289.html](https://www.mofa.go.jp/mofaj/af/af2/page1_001289.html)

協力趣意書を締結する等<sup>3</sup>、アフリカ開発に関わるステークホルダーとの協力・対話も深化させている。

このように、近年本会のアフリカ関連委員会の活動は加速化しており、本会提言を受けて立ち上げられた and Capital も来春に予定されている資産運用開始に向けて様々なステークホルダーの理解・協力を得つつ、活動を軌道に乗せようとしている。本会及び and Capital が日本企業の対アフリカ投資促進を目指して活動していく中、昨年につき AfDB からマラケシュ（モロッコ）にて開催される AIF への招待を受ける形で、今般ミッションを派遣する運びとなった。

## 2. ミッションの概要

経済同友会ミッションは 11 月 5 日から 11 日にかけて、アフリカの経済動向や課題に関する知見の獲得、日本の経済界からの発信、本会提言に基づく and Capital の構想の PR、会議参加者等とのネットワーキング等を目的としてロンドン及びマラケシュに総勢 9 名（※マラケシュでの日程のみの参加者を含む）からなるミッションを派遣した。

なお、ロンドンについては、英国がアフリカと伝統的な関係を有し、対外直接投資額（ストック）が 2021 年世界 1 位を誇る等、アフリカにおけるビジネスの知見を有すると考えられることから、アフリカにおける日英連携の余地やアフリカ市場への見方等について官民関係者と意見交換を行うべく、AIF 参加に先立ち訪問することとしたものである。

今回のミッションでは、ロンドンにおいては 3 件の個別面談、マラケシュにおいては AIF への参加に加え、4 件の個別面談を実施した。

ミッションの日程及び本会参加者については以下「3. ミッション日程」及び「4. ミッション参加者名簿」のとおりである。

---

<sup>3</sup> 2022 年 11 月 7 日 本会お知らせ「アフリカの開発課題解決に向けたビジネス関係強化に向けて、アフリカ開発銀行と協力趣意書を締結」[https://www.doyukai.or.jp/newsrelease/2022/221107\\_1048.html](https://www.doyukai.or.jp/newsrelease/2022/221107_1048.html)

### 3. ミッション日程

11月5日(日) 午後	英国ロンドン着
11月6日(月) 10:30-11:50	在英国日本国大使館との面談
14:00-15:00	ジェトロ・ロンドン事務所との面談
16:00-17:00	British International Investment との面談
11月7日(火) 午前中	ロンドンからモロッコ・マラケシュへ移動
午後	マラケシュ市内視察
19:00-21:00	AIF 参加者との夕食懇談会
11月8日(水) 9:00-11:00	AIF 出席
11:55-12:15	Africa Finance Corporation との面談
14:00-17:00	AIF 出席
17:00-18:00	JBIC パリ事務所との面談
11月9日(木) 9:00-12:00	AIF 出席
13:45-14:00	AfDB との面談
16:00-19:00	AIF the Special Japan Room session 出席
19:00-21:00	野元 AfDB 理事主催レセプション出席
11月10日(金) 11:00-12:20	AIF 出席日系スタートアップ代表者との面談
午後	AIF 出席
11月11日(土)	マラケシュ発(翌12日日本着)

## 4. ミッション参加者名簿

### ■ 会員

- 井出達也 株式会社フジタ 取締役常務執行役員 営業本部長  
(グローバルサウス・アフリカ委員会委員長)
- 洪澤健 シブサワ・アンド・カンパニー 代表取締役  
and Capital 代表取締役 CEO  
(グローバルサウス・アフリカ委員会委員長)

### ■ 会員代理・随行

- 石田徹男 株式会社フジタ 上席参与 国際本部副本部長
- 若林素子 株式会社フジタ 建築本部 設計統括部 計画設計第四部
- 堀江徹 日本信号株式会社 執行役員 グローバルビジネス推進室長
- 山本雄祐 丸紅株式会社 アフリカ統括 (※)
- 澤村洋平 丸紅株式会社 カサブランカ支店長 (※)
- 佐藤哲 株式会社 and Capital 代表取締役 CIO (※)
- (※マラケシュでの日程のみ参加)

### ■ 本会随行

- 坪根耕平 政策調査部 マネジャー

## 5. アフリカ・インベストメント・フォーラム (AIF) 概要

- 開催日程：2023年11月8日（水）～10日（金）
- 開催地：モロッコ・マラケシュ
- 特徴・詳細：

AIFは、アフリカにおける膨大なインフラ需要に鑑み、AfDBが2018年に立ち上げた投資促進のためのプラットフォーム。一般的なセミナーとは異なり、各国企業等による具体的な事業・プロジェクト提案を議論の俎上に載せ、ステークホルダーとの対話を通じて、融資・投資に耐えうる水準にブラッシュアップする機会を設けること、実際の資金調達やパートナーシップ構築を図ることなど、具体的な「結果」を生み出すことに焦点を当てたプログラムが特徴。

公開セッションとなる全体会合や、個別の事業案件のレビュー・ブラッシュアップを目的とした招待制のボードルームセッションなど、複数のセッションの組み合わせによってプログラムを構成している。参加者は、政府機関、民間企業、国際開発機関等。具体的事業・プロジェクトを提案し、投資やパートナーを募る立場、または案件を発掘し、投資・提携を求める立場、アフリカビジネスに関わる生の情報収集目的など、いずれの立場での参加も可能。参加者同士でのマッチング面談なども実施されており、ネットワーキングの場ともなっている。

本年のAIFには60か国から1,000人以上が参加した。また、サイドイベントとして「ジャパン・スペシャル・ルーム」も開催され、アフリカでのビジネス機会を模索、あるいはアフリカにおいて実際に活動している40社の日本企業から80名以上が参加し、投資ファンドやヘルスケア、エネルギー、インフラ関連ビジネスについてプレゼンテーションを行った。本会からは渋澤グローバルサウス・アフリカ委員長が登壇し、and Capitalの活動状況や150年前に途上国であった日本の人的資本投資がその後の発展につながったことなどを紹介した。<sup>4</sup>

- プログラム（公表済の予定に基づくもの）

11月8日	
9:00-9:45	Welcome and Statements
9:45-10:45	Conversations with Heads of State: Accelerating Africa's Economic Transformation
10:45-11:10	Coffee Break

<sup>4</sup> 2023年のAIF結果詳細はAIFのウェブサイト参照：<https://www.africainvestmentforum.com/en>  
ジャパン・スペシャル・ルームの結果概要はAfDBの和文発表も参照：<https://afdb-org.jp/news/5788>

11:10-12:30	Responsible Industrialization: Investing in Productivity, Progress and Prosperity
12:30-12:45	Shaping the future: The new generation of African Sovereign Investment Funds
13:00-14:00	Opening press conference of AIF Founding Partners
14:00-15:15	Launch of the Special Agro-Industrial Processing Zones Alliance
15:30-16:30	Strategic Minerals: Financing a New Global Era of Prosperity
16:30-17:00	Investment Spotlight and Country Focus: Morocco Now & Forever
17:00-18:00	Panel discussion: The Moroccan Way Balancing Economic Growth with Social Imperatives
19:00-	Gala Dinner
<b>11月9日</b>	
09:00-10:00	Agri-Business: Unleashing Innovation and Unlocking Growth
10:00-11:00	Made in Africa: Unlocking the Potential of Domestic Manufacturing
11:00-11:30	Coffee Break
11:30-12:10	Sports as a Business Catalyst
14:30-15:30	Investment Spotlight
15:30-15:55	Regional Corridors: Quest to Integrate Africa
15:55-16:40	A deep-dive panel discussion of the Regional Corridors
16:40-16:55	Q&A
16:55-17:00	Closing Remarks:
<b>11月10日</b>	
09:30-10:30	Opening Plenary: Digital Disruptors and Transformative Technology
10:30-10:45	Coffee Break
10:45-12:00	Renewable Energy and Natural Capital: Accelerating Green Growth
12:00-13:00	Climate-Resilient Infrastructure: Securing the Future
14:30-15:30	Capital Market: Mobilizing Investment for Transformational Growth

15:30-16:00	Coffee Break
16:00-17:15	Africa' s Creative Industries: Strategies for Promoting Investment and Growth
17:15-17:45	Closing Plenary
17:45-18:45	Closing press conference for founding partners
19:00	Closing Reception and Creative Industry Showcase

## 6. 個別面談概要

以下は、各個別面談における概要を事務局文責でまとめたもの。

### (1) 在英国日本国大使館との面談

【日時】 2023年11月6日(月) 10:30-11:50

※前半15分は林大使への表敬、後半75分は館員との意見交換

【場所】 在英国日本国大使館

#### 【面談者】

- ・ 林 肇                    駐英国日本国特命全権大使
- ・ 孫崎馨                公使兼総領事
- ・ 青木洋紀            参事官
- ・ 大西絵里子        専門調査員

#### 【概要】

- ・ 英国は、コモンウェルス加盟国との間で人的交流を盛んに行ってきたこともあり、交流により培われた人脈が英国企業のアフリカ進出の助けになっている部分はあると思われる。
- ・ 日英関係では、2022年5月の岸田総理の訪英、皇室・王室間の往来、次世代戦闘機の共同開発、円滑化協定の署名などの安保面での協力深化など関係が緊密化。2023年5月のG7サミットや西村経済産業大臣の訪英時等に半導体、輸出・貿易金融、原子力等においても協力深化を図っていくことが表明されている。
- ・ 英国は2024年4月にアフリカ投資サミット(Africa Investment Summit)を開催予定。参加表明国は24か国あり、必ずしも英国と関係が深くなかった非英語圏の国々も参加表明している。これは英国が対アフリカ投資誘致のアピール対象として映っていることを表す。非英語圏の国のコモンウェルス加盟の動きも見られ、英国にとってもコモンウェルス加盟国からの人材確保につながる機会となっている。

- ・ 海外から日本への国費留学生は、資金・言語面での難しさ、留学後の出口が不透明といった点が課題となっている。英国の、コモンウェルスからの留学生優遇制度から得られる教訓はあるかもしれない。

## (2) ジェトロ・ロンドン事務所との面談

【日時】 2023年11月6日(月) 14:00-15:00

【場所】 ジェトロ・ロンドン事務所

【面談者】

- ・ 由良英雄           ジェトロ・ロンドン事務所長兼欧州調整センター長
- ・ 木ノ本知弘       ジェトロ・ロンドン事務所 次長
- ・ 山田恭之           ジェトロ・ロンドン事務所 所員

【概要】

- ・ 英国の対アフリカ貿易額は22年にコロナ前の水準に回復。本年6月にはEUから引き継いでいた関税制度に代わって開発途上国との貿易制度を導入。対アフリカでは採掘産業や金融サービス分野での投資が多い。
- ・ 2022年5月に策定した国際開発戦略において、多国間から二国間援助への注力、アジア太平洋地域への注力が掲げられたが、スナク政権は多国間援助にも引き続きコミットすることを表明。アフリカの投資有望分野としてはクリーンエネルギー、農業、グリーンファイナンスを挙げている。
- ・ 対アフリカ投資に必ずしも明るくない日本のファンドにとって、対アフリカ投資判断を行うロンドン所在のファンド、英国が必ずしも経験が豊富ではない東アジアでのビジネス経験が豊富な日本企業など、互いに補完できる余地はあろう。重要鉱物資源においても日英協力の余地はある。
- ・ 英国企業はアフリカにおいて金融、鉱業の分野で活発。在英アフリカ人コミュニティの存在も大きく、在英アフリカ人向けサービスに特化したスタートアップも存在している。

## (3) British International Investment (BII) との面談

【日時】 2023年11月6日(月) 16:00-17:00

【場所】 British International Investment

【面談者】

- ・ Chirantan Patanaik, Director, Head of Venture Capital, Technology & Telecom, Equity
- ・ Georges Vuong, Investment Manager, Consumer Services and Social Infrastructure

【概要】

- BII は南アジアとアフリカ地域を中心に投資を行う、1948 年設立の英国政府の開発金融機関。2022 年に CDC(Commonwealth Development Corporation) から改称。最近では東南アジアにも投資対象を拡大。10 年ほど前からインパクト投資にも注力し始め、より長期の投資期間となる案件も増加。
- BII が（無償援助ではなく）投資を志向しているのは、ビジネスマインドがあったため。かつてのオーナーにも現地企業（ホテル、工場等）関係者が多かった。バランスシートのほとんどはグロース資本に投資している。
- 地域別ではポートフォリオの 60%はアフリカ向けだが、今後対アジアも増加する見込み。貸付よりエクイティ投資が多いが、開発金融機関としてハイリターンを追求しない流れもあり、貸付がより増加していく見込み。
- 投資先の選定は、（投資先の）現地に所在するチームがネットワークを活用して面談を行い判断している。国、分野に応じて個別に判断しており、資本規模等の一律的な基準を当てはめ判断するアプローチはとらない。

#### （４）Africa Finance Corporation (AFC) との面談

【日時】 2023 年 11 月 6 日（月） 11:55-12:15

【場所】 Movenpick Hotel（AIF 会場隣接ホテル）会議室

【面談者】

- Samalla Zubairu AFC CEO

【概要】

- AFCはアフリカ各国が2007年に設立した開発金融機関。42か国が加盟し、アフリカのインフラ不足の解消に取り組んでいる。総資産は約 120 億ドル。AFC の出資者には開発金融機関、年金基金、保険機関等もあり、インパクトや雇用創出を目指し、融資と株式投資の双方を行っている。
- SMBC と業務提携に関する覚書も締結しており、日本の銀行、証券会社との協力を模索している。TICAD8 にも出席し、日本の関係者とも活発に意見交換を行った。日本企業のアフリカでの経験を歓迎している。経済同友会会員有志が立ち上げた and Capital の取組にも関心がある。
- 直近では、ジブチの風力発電プロジェクト、ガボンでのバリューチェーン強化のため工業団地の整備プロジェクト等を進めている。工業団地の整備には電力が必要となるが、再生可能エネルギーの推進にも努めている。

#### （５）JBIC パリ事務所との面談

【日時】 2023 年 11 月 8 日（水） 17:00-18:00

【場所】 Movenpick Hotel（AIF 会場隣接ホテル）会議室

【面談者】

- 辰巳智則 JBIC パリ駐在事務所首席駐在員
- 森岡隼也 JBIC パリ事務所駐在員
- 野元隆章 AfDB 日本代表理事
- 木下直茂 AfDB アジア代表事務所次席

#### 【概要】

- 2023 年 10 月の法改正により、海外事業を行う国内企業への出資が JBIC の業務に追加された。アフリカにおけるスタートアップの文脈では、and Capital とも情報共有を図っていきたい。
- JBIC は、成長後に日本企業が買収・協業できるような企業をポートフォリオに持つ海外ファンドの設立を目指しており、そうした流れの中で（2019 年の）JB Nordic Fund I SCSp の組成を行い、他地域への横展開も視野に入れている。
- 欧米のファンドが集中する地域・分野では、スタートアップに対する投資も過熱しており、日本のファンドが日本企業 LP の意向を汲んで成果を上げることが難しいケースもある。日本の投資家からの資金調達はやや容易でないと推測するが、and Capital はアフリカという難しい地域において日本企業からの出資を集め、日本企業とのコラボレーションを企図している点に着目している。

### （6）アフリカ開発銀行（AfDB）との面談

【日時】 2023 年 11 月 9 日（木）16:00-17:00

【場所】 Palais des Congres (AIF 会場) 総裁室

#### 【面談者】

- Akinwumi A. Adesina AfDB 総裁
- Solomon Quaynor AfDB 副総裁
- 野元隆章 AfDB 日本代表理事
- 木下直茂 AfDB アジア代表事務所次席 ほか

#### 【概要】

- 日本から 80 名近くの企業関係者に参加いただいたことに感謝。4 月の（Adesina 総裁の）訪日時は多くの日本企業との関係強化につながった。
- （経済同友会会員有志が立ち上げた）and Capital の進捗もうれしく思う。90 社以上訪問し、ファンド運営開始をまもなく予定していることは喜ばしい。
- AfDB は Youth Entrepreneurship Investment Bank を立ち上げ、出資を決定したところ。若者の支援においても日本との連携を期待している。
- G7 では、Global Partnership for infrastructure にて、より広大なアフ

リカの回廊整備が掲げられていたことを歓迎。TICADにおいてもアフリカの回廊整備が掲げられてきたが、日本がどの回廊を重点的に開発していくべきかリードをとってくれるとよい。

## (7) 日系スタートアップとの面談

【日時】 2023年11月10日(金) 11:00-12:20

【場所】 Movenpick Hotel (AIF会場隣接ホテル) 会議室

【面談者】 (五十音順)

- ・ 秋田智司 WASSHA 株式会社代表取締役 CEO
- ・ アブ ザヘド アザド KENS.CO 国際マーケティングマネージャー
- ・ 池戸あいり 株式会社インデックスストラテジー取締役兼執行役員
- ・ 石田宏樹 AAIC Partners Africa Limited ディレクター
- ・ 梅田昌季 SORA Technology 株式会社 Vice Chief Executive Officer
- ・ 笠井綾子 株式会社 Spiker 代表取締役
- ・ 佐藤弘一 株式会社 シュークルキューブ ジャパン 代表取締役社長
- ・ 嶋田庸一 株式会社 Connect Afya 代表取締役
- ・ 須田裕美 つばめ BHB 株式会社 アフリカマーケティングマネージャー
- ・ 玉川雅之 工学院大学 特任教授 (AAIC シニアアドバイザー)
- ・ 寺久保拓摩 UNCOVERED FUND INC. CEO & ジェネラルパートナー
- ・ 原健太 AA Health Dynamics 代表取締役
- ・ 廣瀬拓哉 Steinmüller Engineering GmbH 技術協カマネージャー
- ・ 古田国之 株式会社 SOIK 代表取締役

### 【概要】

- ・ アフリカをフロンティアだと言う経営者もいるが、賄賂の実態などの現場からの情報を必ずしも把握していないケースもある。アフリカはまだまだ慎重にやるべき市場。
- ・ 大企業はスタートアップと異なり、アフリカ事業が失敗しても倒産するわけではない(ので思い切ってほしい)。
- ・ 企業からスタートアップに人を派遣してもらうことは有益。スタートアップの人手不足を補えることに加え、大企業にとっても派遣した人が大きく「化ける」可能性もあり、人材育成の観点からもメリットがある。
- ・ ちょっとした調査などを現地スタートアップに依頼してもらえるとありがたい。スタートアップは大手より安い料金で受託でき、現地にいるため情報も持っている。スタートアップにとって、ちょっとした調査依頼が資金源になる。

- アフリカ進出を目指す企業にとって、日本からアフリカに進出済かつ日本に拠点がない国外在住日系スタートアップの紹介を行うネットワークがないのが課題。進出済の日系スタートアップを紹介できるようなネットワークがあるとよい。

## 7. おわりに

今回のミッションにおいては、アフリカと伝統的な関係を有する英国からアフリカビジネスや日アフリカ関係深化に向けた示唆が得られたこと、アフリカ開発に関わる官民ステークホルダーとの関係深化につながったこと、アフリカ開発に寄与する活動を行っている官民関係者から日本のビジネスが果せる役割について示唆が得られたことが大きな成果と考える。

ロンドンにおいては、本会はこれまで必ずしも英国官民関係者からアフリカビジネスに対する見方をヒアリングする機会が多くなかったものの、今回、英国のアフリカとの伝統的な関係や人的交流を基盤としたビジネス上の強み、日英両国の「得意分野」を踏まえたアフリカにおける日英連携の余地について、貴重な示唆を得ることができた。

マラケシュにおいては、AIF への参加を通して、and Capital の構想を AfDB、AIF のパートナー機関である開発金融機関等、アフリカの官民関係者に説明する機会を得られ、今後の本会及び and Capital との連携余地について意見交換する機会が得られた。AIF においては、サイドイベント「ジャパン・スペシャル・ルーム」が開催され、日本企業 40 社 80 人が参加したことは、規模を問わず日本企業のアフリカでの活躍の裾野の広さを示すとともに、AfDB の日本に対する期待の高さの表れでもあると言える。加えて、アフリカで実際に活躍している日系スタートアップから現地の課題やポテンシャル、大企業に期待する役割やスタートアップとの関与の在り方について示唆が得られたことも、今後日本のビジネス界がアフリカに進出していく上でのヒントになったと考える。

AfDB からは、若者の起業を支援していく姿勢や G7 等の国際場裏において質の高いインフラの重要性が掲げられ、主要国によるアフリカ回廊整備に焦点が当たる中、日本がアフリカ回廊開発の議論をリードしていくことに対する期待も表明された。

今回のミッションで得られた示唆も踏まえ、2025 年の TICAD9 に向けて着実に本会提言の準備を進めていきたい。

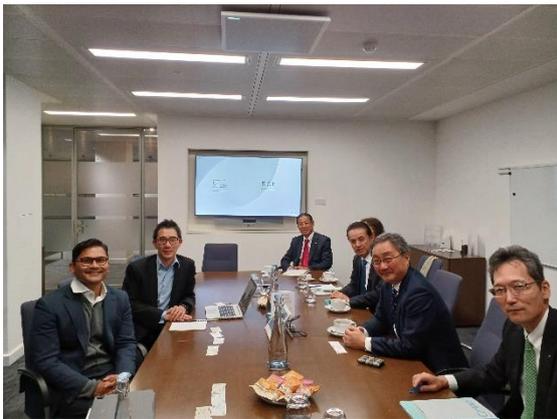
## 参考：ミッション中の写真



在英国日本大使館：林大使との面談



ジェトロ・ロンドン事務所との面談



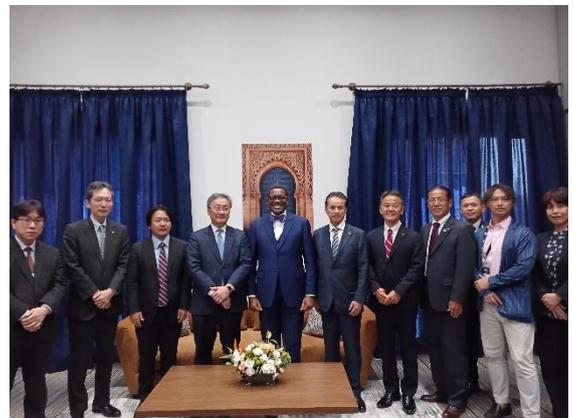
BII との面談



AIF 公開セッション



Adesina 総裁と Azali コモロ大統領（AU 議長）



Adesina AfDB 総裁との面談



ジャパン・スペシャル・ルーム



日系スタートアップとの面談